

1.アンケート回答者の所属

居宅介護支援事業所10、訪問看護St4、薬局4、地域包括支援センター3、未記載1

2.感想

(企画)勉強になった22 難しくてわからなかった0 簡単すぎた0

(内容)わかりやすかった。15 わかりにくかった0 どちらともいえない0

(点数) 10点:8 9点:1 8点:5 7点:2 6点:1

3.どのようなことを学んだか？

- ・支援困難ケースに対してのアプローチ方法について、各職種からの意見があって面白かった。5
- ・本人が何を考えているのか、何に困っているのかという点と周りが困っている事を混同してはいけない。そうすることで本当の課題が見えにくくなるということ学んだ
- ・自身に困り感のない場合をセルフネグレクトと判断することも一つの手である。
- ・ケアマネだけでは解決できないので役所とかチームで行っていく
- ・本人に対しての向き合い方
- ・セルフネグレクトの概念
- ・問題についての整理方法
- ・周りをたくさん巻き込んで大勢でかかわる。3
- ・独居で家族がいないと誰が中心になって動くか、ワーカー、CM、包括等、誰がやるのか？
- ・見守りセンターを活用してみるという発想が今までなかったので、同じような例の時に考えたいと思う。
- ・制度内の困難事例の対応策がそれぞれあり、勉強になった
- ・セーフティネット、**社会的処方**という言葉学んだ
- ・制度内で解決できない点についてやはり難しく、結果的にどのように対応できるか、自分自身の事案であった時どう動けるか不安ではある。
- ・制度内で難しい症例に対する社会資源
- ・医療だけで解決できない事例が多くあり、皆さん経験しているということ
- ・医療や介護ではどうしようもないときは行政を巻き込んでやっていかなければならない事がよくわかった
- ・医療では解決できない問題が、解決できるような世の中に変わって行くところを一員として見て学んでいきたい
- ・**社会的なつながりを持つことで何か良い方向に向かえるのではないか**
- ・本人の困り感のないケースへのアプローチは多職種連携
- ・まず行政、区役所等の主力を動かす
- ・本心を探ると原因（問題）が見えてくる

4.もっと聞いてみたいこと

- ・包括の方からも意見が聞けて良かった
- ・今回の事案ではいれる行政サービスについて
- ・後見人をつけるために必要なこと

- ・ **社会的処方 2**
- ・ **役所、包括、地域との連携の取り方**
- ・ お世話する人がいなくなった場合、ペットはどうなるのか？
- ・ 保護課がからむ事案のリーダーシップは誰か？
- ・ 責任の所在がケアマネになく、リスクマネジメントも考えないといけない。
- ・ セルフネグレクトが疑われる方に対する支援、アプローチ方法。

6. (参考) 参加事業所

高田ファミリー薬局、ひらまの里地域包括支援センター、ソフィア訪問看護ステーション、リンクス訪問看護リハビリステーション、たちばなケアプランセンター、なかはらケアプランセンター、新鶴見ホーム、すみよし地域包括支援センター、薬樹薬局鹿嶋田在宅グループ、フロンティア薬局、ひまわり歯科、和楽館居宅サービスセンター、セントケア、ケアホスピス中原、さいわい訪問看護、みずたま